

第 50 期日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

広島市立大学 国際学部 4年 赤畑利奈

2024 年グアナファト研修

はじめに

Hola!

今回は2月28日から3月1日の3日間に行われたグアナファト研修について報告します。皆さんグアナファト州はご存じでしょうか？メキシコのほぼ真ん中に位置するこの州は広島県の姉妹都市であり、なんと今年で姉妹都市提携10周年を迎えます。実は高校生の時に「グアナファト州青少年交流派遣事業」に参加し、2度目の訪問となります。私がメキシコという国を好きになったきっかけの場所でもあるので、再度訪問することができ心を躍らせていました。

今回はもう一人の広島県参加者とともにサラマンカ、グアナファト市、レオンの3つの都市を訪れたので、時系列ごとに紹介していきます。

1日目～サラマンカ・Planta de mazda 見学～

朝8時10分メキシコシティ発のバスに乗り、4時間半ほどゆられてサラマンカを目指します。サラマンカに到着後、現地コーディネーターの土田さんと現地グアナファト市のITESG工科大学の学生6人と合流し、マツダ・メキシコ工場に向かいました。

マツダ工場では、マツダという会社について、またその歴史およびメキシコにおける業務について説明を受けました。メキシコ・サラマンカ工場ではMazdaCX-30をはじめとした4種5モデルを生産しており、約8割をメキシコ国外や38か国へ輸出しているようです。その後カートに乗り、工場内を部品プレス、部品溶接、車体組み立ての現場を案内していただきました。部品プレスで使われている機械は日本の工場で使用している同様のものを搬入し、使っているそうです。また溶接現場において日本だと9:1で機械と人で作業が行われており、ここメキシコでは7:3の割合で人の手で行われることが日本に比べて多いそうです。そのため工場の一角には研修室があり、新人やブランクのある方はそこで練習してから業務に臨むようです。

工場見学後、質疑応答の時間では工科大学の学生から質問やコメントが寄せられました。特に車の生産において多くの工程があるのにもかかわらず作業スピードの速さとスムーズな社員同士の連携に驚いていました。私が印象に残ったのは、「地域との信頼関係強化に力を入れている」ということです。私は広島生まれ広島育ちで、小学生の時は広島のマツダ工場に見学に行ったことがあります。また広島東洋カーブの本拠地Mazda zoom-zoom スタジアムなど広島の人にとってMazdaという会社は身近な存在だと思います。このように広島の人々とマツダ車が密接な関係であるように、サラマンカの街の人にとってもそういう存在

になることを目指しており、駅伝大会やサッカー試合の開催などを積極的に行っているそうです。ここ数年はコロナウイルスの影響もあり、イベントは開催できませんでしたが、今後また再開を計画中のとのことでした。マツダをはじめとする広島企業が日本とメキシコをつなぐ架け橋の一端を担っているのをこの目で見ることができ、とても光栄に思えた瞬間でした。



学生の皆さんとマツダ工場にて

サラマンカ工場始業から10周年を
記念した帽子を頂きました。

2日目～州都グアナファト市観光とグアナファト大学の学生交流～

1日目の夕方に州都グアナファト市に移動し、2日目の朝まずはミイラ博物館を訪れました。ミイラ博物館とはその名の通り、ミイラが何体も展示されています。このミイラはもともと州政府が運営する墓地に納められたご遺体で、5年たつて墓地の管理費の支払いが行われなくなったものの中から状態のいいものが置かれています。とはいってもきれいなミイラの状態で残るのは全体の2%ほどしかなく、ほとんどは風化によって崩れてしまうようです。展示されているミイラは赤子から老体まで多様で、150年前のミイラもありました。高校生の時もホストファミリーに連れられ見学しましたが、また印象が違って見えとても興味深かったです。



グアナファト ミイラ博物館



その後、グアナファト大学に行き、日本語を学ぶ学生との交流及び今後の広島とグアナファトにおける交流について意見交換を行いました。意見交換では「国際交流において大事なこと」「今後の交流方法について」の2点を話し合いました。国際交流において大事なこととして、オープンマインドで接し相手の文化を受け入れることなどが挙げられ、特に日本とメ

キシコの距離感の違いについてお互いに理解し合うことが必要だと話し合いました。メキシコでは一度知り合えば友達で、家族の一員のように受け入れられますが、日本だと人それぞれに距離の縮め方があり、仲を縮めるのに時間がかかる場合もあります。現地学生の中で日本に留学経験のある学生は日本人と友達になるのは難しいとっていました。確かにメキシコ人は一度話すとそれ以降、目が合えば友達として挨拶や世間話をするというように距離の縮まり方が速くその懐の広さがメキシコ人の良さだと思いますが、初めはその速さに戸惑うこともあったので、お互いの国民性を理解するというのはとても重要だと感じました。今後の交流方法については、芸術の街グアナファトの特徴を活かした、音楽や演劇を通しての交流案やお菓子を使った案が出てきました。その他にもテキーラが有名なグアナファトと酒処広島で酒祭りを開くという案もあり、今後の交流が楽しみになりました。



スペイン語と日本語を交えて、今後両都市の交流について意見交換を行いました。

たくさんの学生と交流することができとても楽しい時間でした。

意見交換の後は、グアナファト市中心部を歩いて観光しました。市場やディエゴリベラ美術館などに行き、最後は街を一望できるピピラの丘に登りました。グアナファトの景色といえば何とんでもこのカラフルな街並み。きれいな街並みを見ていると何時間でもその場にいられるような気がします。



フアレス劇場



ピピラの丘からの景色

3日目～レオン市観光～

3日目はレオン市を訪れました。レオン市には在レオン領事館や Mazda がスポンサーを務めるプロサッカーチームのスタジアム等があります。レオンはスペイン語でライオンを意味し、街のいたるところで街のシンボルでもあるライオンの像を見かけました。またレオン市は靴や革製品が有名で市場に行くと革製品を売るお店がずらりと並んでいました。この市場から他の州や街に売り出されるため、他の場所より比較的安く購入できるようです。レオン市には数時間の滞在でしたが、街並みもきれいでグアナファト市とはまた違った雰囲気を楽しむことができました。



街の名前 León にちなんでライオンの像があちらこちらに

2024年でグアナファト州と広島県の姉妹都市提携は10周年を迎えます。私たちのような青少年の交流をはじめ、グアナファト伝統音楽団のフラワーフェスティバル参加など多様な交流が行われてきました。もし高校生の時グアナファトを訪れていなかったら、私はこの日墨のプログラムに参加していなかったと思います。今回街を歩いていてたくさんの思い出が浮かんでくるとともに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。今後も両都市の交流が盛んにおこなわれるよう、恩返し気持ちを込めて私にできることで貢献していきます。今回この研修を計画してくださった広島県国際課の皆様、コーディネーターの土田様、そして私たちを受け入れてくださったマツダ・サラマンカ工場の皆様、工科大学、グアナファト大学の皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

それでは

¡Hasta luego!